

パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略(仮称)(案)に対する意見

| | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 郵便番号 | 100-0004 |
| 住所 | 東京都千代田区大手町 1-1-3 大手センタービル 電機・電子温暖化対策連絡会 幹事事務局 (一般社団法人電子情報技術産業協会 技術戦略部) |
| 氏名 | 電機・電子温暖化対策連絡会 議長 中野 博文 |
| 連絡先電話番号 | 03-5218-1054 電機・電子温暖化対策連絡会 幹事事務局 (一般社団法人電子情報技術産業協会 技術戦略部) |
| <p>【意見】</p> <p>○該当箇所 P.8-9「第1章 基本的考え方 2.我が国の長期的なビジョン」</p> <p>○意見の概要</p> <p>今般、政府が公表した「パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略(仮称)(案)(以下、長期戦略案)」の内容は、記載の通り、長期に亘る野心的な「めざすべき方向性=ビジョン」を示すもので、達成すべき「ターゲット(目標)」である2030年度の中期目標とは性質が異なる。そうした違いも含めて、政府におかれは、国民各層に向けて、共通の理解となるよう丁寧に説明されることを望む。</p> <p>そうした理解の上で、我々は、このビジョンの下で、今後、技術・経済的に実現可能な選択肢を見出し、社会構造の変化や様々な不確実性と向き合いながら、重点分野を判断して投資を集中させ、また、新たなイノベーションを取り込むなど柔軟なアプローチでその取り組みを進めていく必要がある。</p> <p>○意見及び理由</p> <p>パリ協定の下、国際社会がめざす長期に亘る地球規模での脱炭素化は、様々な不確実性と向き合いながら、世界全体が持続的な発展を遂げていくものであり、その到達への努力は極めて難易度が高いものである。実際、我が国も、将来的に社会・産業構造が大きく変化していくことが予見される中、国際社会の一員として大幅な排出削減と成長の好循環を実現し、地球規模の脱炭素化に貢献していくには、従来の延長線上にはない様々なチャレンジに取り組んでいく必要がある。</p> <p>そうした認識の下、今般、政府が公表した長期戦略案は、我が国の現状を鑑みて、優れたエネルギー・環境技術を有する強みを活かしながら、めざす方向</p> | |

性(「ビジョン」)として、さらに、「幅広い革新的技術の開発と低コスト化による円滑な社会実装に取り組み、イノベーションによって脱炭素化にチャレンジする」ことを国内外に示す内容となっている。合わせて、その難しさや多くの課題も示されているが、環境と成長の好循環の実現をめざす方向性として、我々、電機・電子業界も、この野心的なビジョンに賛同する。

○該当箇所

P.22「第2章 各部門の長期的なビジョンとそれに向けた対策・施策の方向性
2. 産業(1)現状認識 ③グローバル・バリューチェーン(GVC)を通じた削減貢献」

○意見の概要

P.22の25行目以降の記述は、現状においても、引き続き、政府と産業界が連携して取り組む段階にあることから、「さらに、官民による連携の下、削減貢献の考え方が国際社会の中でも理解が醸成され、世界の産業界等との間で共有が進展するように、その深化・普及を通じて...」と追記等を提案する。

○意見及び理由

P.22の24行目以降は、「産業界は自らの削減貢献量を定量化し、...ステークホルダーに対して情報発信を行っている。さらに、削減貢献の考え方を世界の産業界等と共有し、その深化・普及を通じて...」と記載されている。我々、電機・電子業界も、省エネ・低炭素型の製品やソリューションサービス等を市場に提供し、ライフサイクル全体、GVCを通じた温室効果ガス排出削減を進める中で、削減貢献の考え方を検討し、定量化と情報発信を行ってきた。そして、国際標準化等での知見も踏まえ、経済産業省の国内ガイドライン作成にも協力してきた。

そうした経験から、GVC削減貢献の定量化には、実際、サプライヤーやユーザーの活動に伴うデータ収集の制約等もあり、ベースラインの設定及び透明性等の説明も含めてその難しさや課題も認識している。したがって、多くの業種が取り組み、「さらに、削減貢献の考え方を世界の産業界等と共有し、...」とするには、政府間の国際的な政策論議も含めた理解醸成も重要である。現状では、政府と産業界が課題と取り組みの着地を見定め、連携して対応を進めていくべき段階と考える。

○該当箇所

P.27「第2章 各部門の長期的なビジョンとそれに向けた対策・施策の方向性
2. 産業(3)ビジョンに向けた対策・施策の方向性 ⑤企業経営等における脱炭素化の促進」

○意見の概要

P.27の18行目以降の記述について、「また、中小企業を含めてパリ協定の長期目標と整合する野心的な目標の設定や、気候関連リスク・機会を織り込む経営戦略の策定を促進していくには、脱炭素化を企業経営に取り込むモチベーションが得られるように、経営の質的な転換を長期に保障し、社会に浸透させるため、経営環境の諸制度も見直していくことが求められる。」と追記等を提案する。

○意見及び理由

電機・電子業界でも、既に、多くの企業が中長期的に、企業経営の中で環境やCSR等様々な社会的課題を取り込み、自らのビジネスリスクと機会を踏まえ、その解決に貢献していく方向にある。脱炭素化は、それら社会的課題への取り組みの中で優先度も高く大きな事項であるが、同時に、企業経営には総合的且つバランスのある舵取りも求められる。

今後、中小企業も含めて脱炭素化の取り組みの裾野を広げていくには、既にトップレベルで取り組んでいる企業のそれはモデルケースとして奨励し、ボトムアップとしては、企業が長期的に「リスクと機会」の評価を行い、自らの経営や事業の質的な転換を進めていく間は、一定期間、それを社会的に保障するような資金面のサポートを含め、経営環境の関連諸制度を見直していくことも必要であると考えます。その結果として、取り組む企業数も増加していくものと考えます。

○該当箇所

P.78「第4章 その他の部門横断的な施策の方向性」
(5)カーボンプライシング

○意見の概要

P.78の10行目以降の記述について、「産業の国際競争力への影響等を踏まえ、専門的・技術的にも慎重な議論が必要である。」と追記を提案する。

○意見及び理由

カーボンプライシングについては、「産業の国際競争力への影響等を踏まえた専門的・技術的な議論が必要」との記述がある通り、炭素税等エネルギーコストへの賦課的な議論で、国際競争力へどのような影響等を与えるのか、引き続き、「専門的・技術的にも慎重な議論が必要」と考える。